# 授業改善イメージ①（今学期の係を決めよう／4年）

## これまで多く見られた学級活動

**【導入】**

T：夏休みが終わってすぐに，係活動のアンケートに記入してもらいましたね。先週だったけど，覚えてるかな？　２学期の係をみんなで決める前に，アンケートの結果を見てみましょう。はじめに「１学期の係活動は楽しかったですか？」「係活動にしっかり取り組みましたか？」の結果を黒板に貼りますね。

C：僕の予想通りだ！　楽しかった人がほとんどだ。

T：でも，「しっかり取り組めた」人の数は，「楽しかった」人の数よりちょっと少ないですね。

これまでは，学級生活を円滑に維持するために必要な仕事を全員で分担して行う当番活動と，係活動との違いに注目するあまり，「楽しい係活動」の側面のみが強調される傾向がありました。低学年・中学年・高学年それぞれの発達の段階にも留意しつつ，係活動本来の意義・役割に気づかせるようにすることが大切です。

**【展開　今学期の係を決めよう［話し合い］】**

T：では，アンケートの結果に戻りましょう。みんなに書いてもらったのは，「２学期にしてみたい係の名前」「活動内容」「その係を提案する理由」でしたね。まずは，みんなが提案してくれた「係の名前」をあいうえお順に黒板に貼りますよ。

C：手品係，面白そう！　でも，マジシャン係もある。

T：そうですね。では順番に，その係を提案してくれた人に「活動内容」と「提案する理由」を説明してもらいましょう。まず「あそび係」から。３人が「あそび係」を提案してくれたと思いますが……。はい，○○君。

T：中休みや昼休みの遊びを考える係です。僕は楽しい遊びを考えるのが好きなので書きました。

係活動は，子どもたちの力で学級生活を楽しく豊かにすることをねらいとするものです。4年生くらいからは，自らの個人的な興味・関心・特技等のみではなく，学級の友達の要望・ニーズも視野に収めた上で，一人ひとりが楽しく豊かな学級生活に自ら進んで貢献できるようにしたいですね。

**【終末　ポスター作りの打合せをしよう［話し合い］】**

T：さて，全員の係が決まりましたね。では，新しい係ごとにグループになって，教室の係活動コーナーに掲示するポスター作りの打合せをしましょう。班のリーダーを決めて，「班の活動内容と特徴（アピールポイント）」をどう書くかについて話し合いましょう。ポスターは，昼休みや放課後に係の全員が協力して作ります。

教室内に係活動に関する掲示物コーナーを設けることは，一人ひとりの所属感と参画意欲の双方を高める上で有効な方策の一つです。具体的な活動計画の立案と掲示は，係活動の確実な実践とその後の振り返りを促します。

## これから目指したい学級活動

**【導入】**

T：夏休みが終わってすぐに，係活動のアンケートに記入してもらいましたね。２学期の係をみんなで決める前に，その結果を見てみましょう。はじめに「１学期の係活動にしっかり取り組みましたか？」「自分たちの係は，学級のみんなのためになる活動ができたと思いますか？」の結果を黒板に貼りますね。

C：おお，みんなしっかり取り組んでる！

T：でも，自分たちの係がみんなのためになったと感じている人はあまり多くないようですね。

**【展開　今学期の係を決めよう［話し合い］】**

T：では，アンケートの結果に戻りましょう。みんなに書いてもらったのは，「このクラスにあるといいなぁと思う係の名前」と「２学期にしてみたい係の名前」。これは両方書いてもいいし，片方でもいいのでしたね。また，両方同じでもいいし，違ってもいい。その係の「活動内容」と「提案する理由」も書いてもらいましたね。まず，「あるといいなぁ」と「してみたい」に分けて「係の名前」をあいうえお順に黒板に貼りますよ。

C：デコレーション係！　何をやる係かなぁ。

T：すてきな係が並びましたね。では，「あるといいなぁ」から，それぞれの係を提案してくれた人に「活動内容」と「提案する理由」を説明してもらいましょう。

**【終末　ポスター作りの打合せをしよう［話し合い］】**

T：さて，全員の係が決まりましたね。では，新しい係ごとにグループになって，教室の係活動コーナーに掲示するポスター作りの打合せをしましょう。班のリーダーを決めて，「班の活動内容と特徴（アピールポイント）」の他に，「今月のメインイベント」あるいは「今月の活動予定」をどうするかについて話し合いましょう。





## 【ポイント解説 ①　係活動の意義や役割を踏まえよう】

**【係活動と当番活動】**

係活動の決定やその活動の振り返りは，これまでも，ほとんど全ての小学校の学級活動において扱われてきました。新学習指導要領では，学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」の「イ　学級内の組織づくりや役割の自覚」に位置づけられています。

学級の児童が学級内の仕事を分担処理するという点において係活動に類似する活動として，当番活動が挙げられます。双方が十全に実践されるためには，両者の違いを正しく理解しておく必要があります。

**係活動：**学級生活を共に楽しく豊かにするために創意工夫しながら児童が自主的，実践的に取り組む活動のことです。例えば，学級新聞係や誕生日係，レクリエーション係などが挙げられます。

**当番活動：**学級の生活が円滑に運営されていくために必要な学級の仕事を児童全員で分担し，担当しなければならない活動のことです。多くの場合，教師の指導に基づきつつ，輪番制などにより，全員が公平に交代して役割を担います。

**【発達の段階を前提とした係活動の指導上の留意点】**

低学年では，自分たちでできる仕事を見つけ，仲よく助け合って活動する楽しさを体感させることが大切です。当番的な活動を含む場合もあります。

中学年では，楽しい学級生活をつくるために工夫し，協力し合って主体的に参画できるようにします。当番活動とは明確に分化して行うことが必要になる時期です。

高学年では，自分のよさを積極的に生かし，信頼し支え合って豊かな学級生活づくりに貢献できるようにします。

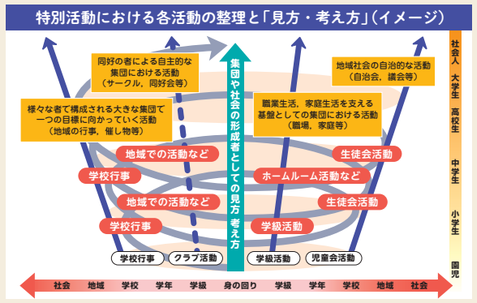
## 【ポイント解説 ②　特別活動の「目標」や「見方・考え方」を踏まえよう】

**【特別活動の見方・考え方と学級活動(1)】**

特別活動においては，その目標が示す通り，「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせることが重要です。ここで言われる特別活動の「見方・考え方」については，「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点で整理されています。

特に学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」の実践にあたっては，集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとする「社会参画」の視点が特に重要となります。このような活動は，社会に出たあとは，職業生活の中心となる職場集団や，家庭生活を支える基盤となる家庭といった集団における活動につながってくる性格をもつと言えるでしょう。集団の中での自己をとらえつつ合意形成を図る重要性を認識したいものです。

特別活動における各活動の整理と「見方・考え方」（イメージ）




中央教育審議会(2016)「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」別添「参考資料1」を基に作成

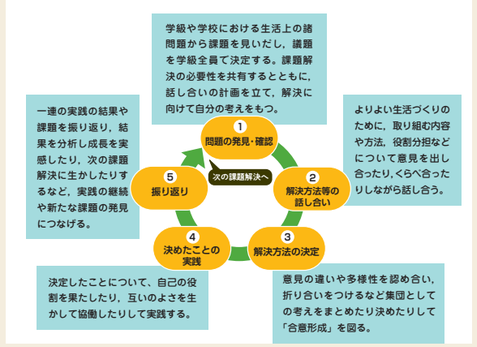
## 【ポイント解説 ③　学習過程を大切にしよう】

**【決めたことの実践と振り返りの重要性】**

学級活動(1)においては，合意形成したことについて，必要な役割や仕事を決め，それらを全員で分担し，協力して実践し，やり遂げることは極めて重要です。「決めたことの実践」とは，自分たちで決めたことについて協働して取り組むと共に，一連の活動を振り返り，次の課題解決へとつなげていくことまでを含んだ活動を意図するものです。

係活動は，係のメンバーがそれぞれ自主的に楽しみながら取り組むべきものですが，同時に，学級生活を楽しく豊かにするという側面において学級という社会に貢献する活動であることを常に意識し，活動計画の立案とそれに基づく実践にあたらせましょう。その際，「(3) 一人ひとりのキャリア形成と自己実現」の「イ　社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解」の内容と関連づけることも大切です。

学級活動「（１）学級や学校における生活づくりへの参画」の学習過程




文部科学省(2017)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　特別活動編』p.45掲載の図を基に作成

# 授業改善イメージ②（来学期に向けて目標を決めよう／3年）

## これまで多く見られた学級活動

**【導入】**

**T**：この学級の目標は，みんなで作った掲示の通り「ニコニコなかよし」「バリバリ元気」「ぽかぽか心に太陽を」ですね。今学期の中心目標を覚えていますか？

**C**：心に太陽！　「ぽかぽか心に太陽を」です！

**T**：その通りですね。では，一昨日，みんなに回答してもらった「学級目標達成度自己評価シート」の結果を見てみましょう。先生がグラフにしてきました。まずは「ニコニコなかよし」から見ていきますよ。「×」の人…おっ，なんと0人でした！　次は「△」…。

これまでは，学級目標が抽象的・感覚的な表現で示され，具体的にどのような行動や実践を「目標」として目指しているのかが分かりにくく，多様な解釈ができてしまうケースが少なくありませんでした。そのため，導入において目標達成度の自己評価をしても，その後の展開の中で活かせない場合もありました。

**【展開 ①　今学期を振り返る［話し合い］】**

**T**：今学期，「誰かの心がぽかぽか温かくなるようなことができたよ」「クラスの誰かに太陽のように優しくしてもらったよ」という経験について発表してください。自分のことでもお友達のことでもいいですよ。

**C**：運動会で転んでしまったとき，○○さんがすぐに来てくれて，クラスのみんなからも「大丈夫？」って言ってもらえました。

**T**：優しくしてもらって，心が温かくなったんですね。○○さんも，みんなもすてきでした。他にありますか？

**C**：僕は運動会のリレーで，縦割りチームが１位になったことがとてもうれしかったです。

**T**：そ，そうだね。1位になれて心が熱くなったんだね。

「ぽかぽか心に太陽を」という感覚的な目標のため，児童の中でも解釈が揺れてしまっているようです。またこれまでは，目標達成のための振り返りの際も，学校行事を中心とした限定的な視点からなされる傾向がありました。これからは「教科学習」「教科外活動」「日常生活」の3つの視点で振り返りができるといいですね。

**【展開 ②　今後を展望する［ワークシートへの記入］】**

**T**：みんなが楽しみにしている冬休みが終わると，いよいよ３学期ですね。２学期の中心目標の「ぽかぽか心に太陽を」をさらにパワーアップして，３学期の中心目標の「バリバリ元気」に挑戦するために，何をどのように頑張ったらよいでしょうか。まずはワークシートに記入してみましょう。

新たに設けられた学級活動「(3)一人ひとりのキャリア形成と自己実現」の実践においては，職に就くことなどの遠い将来ばかりを扱う必要はありません。小学生にとって，次の学期や次の学年なども重要なキャリアです。

## これから目指したい学級活動

**【導入】**

**T**：みんなで話し合って決めた今学期の中心目標を覚えていますか？

**C**：「失敗をこわがらず，やりとげよう」です！

**C**：「失敗をおそれず」じゃなかった？

**C**：言い間違えた！　失敗をおそれず，やりとげよう。

**T**：そうですね。では，一昨日，みんなに回答してもらった「学級目標達成度自己評価シート」の結果を見てみましょう。グラフをちょっとずつ見ていきますよ。「できなかった」人…おっ，なんと0人でした！　次は…。

**【展開 ①　今学期を振り返る［話し合い］】**

**T**：今学期，みんなは「失敗をおそれず，やりとげたこと」がたくさんあったようですね。今，思い出せることがある人は，発表してください。

**C**：漢字ドリルチャレンジです。

**C**：図工のポスター作り！

**C**：朝のマラソンです。大縄飛びも。

**C**：総合でやった「豆腐づくり」です。

**T**：そうでしたね。豆腐づくりは何度も失敗したけど，お豆腐屋さんにコツを教えてもらって，やっとできたんだったよね。さっき，「図工のポスター作り」という意見も出ました。どんなところが「失敗をおそれず」だったのか，もう少し詳しく発表できますか？

**【展開 ②　今後を展望する［ワークシートへの記入］】**

**T**：みんなが楽しみにしている冬休みが終わると，３年生も残り３ヶ月。４月からは４年生ですね。実は，今日，３人の４年生から，それぞれ頑張っていることについてビデオメッセージをいただいてきました。みんなが３学期に頑張ることを考えるためのヒントがもらえるかもしれませんよ。ビデオを見てみましょう。





## 【ポイント解説 ①　学級目標の重要性を再確認しよう】

**【学級目標の重要性】**

平成20年に告示されたこれまでの学習指導要領では，学級活動(2)に「ア　希望や目標をもって生きる態度の形勢」が置かれていました。一方，新学習指導要領では，新たに設けられた学級活動(3)に「ア　現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」が位置づけられました。

ここで，新学習指導要領・学級活動(3)アにおいて，「学級や学校での生活づくりに主体的に関わり，自己を生かそうとするとともに，希望や目標をもち，その実現に向けて日常の生活をよりよくしようとすること」と明示されていることを再確認しましょう。学級での日々の生活の基盤となり，それを方向づける学級目標は，児童一人ひとりが日常の生活や今後に向けた個人の目標を設定し，意思決定する際に大きな影響を与える存在であると言えます。

**【スローガンと目標の違い】**

文部科学省(2017)『小学校学習指導要領解説　特別活動編』は，これまでの特別活動について「各活動・学校行事において身に付けるべき資質・能力は何なのか，どのような学習過程を経ることにより資質・能力の向上につなげるのかということが必ずしも意識されないまま指導が行われてきたという実態も見られる」と指摘しています(p.6)。

これまでは，例えば「キラキラ○年○組」のようなスローガンが学級目標と呼ばれるケースも少なくありませんでした。目標とは，それに基づく取組の成果についての検証・評価が可能であるものをさします。また，そのような検証や評価によって明らかになった課題等を踏まえて改善を図り，新たな取組に反映させる検証改善サイクル(PDCAサイクル)が成立するものでなくてはなりません。

## 【ポイント解説 ②　キャリア教育の「要」としての重要性を認識しよう】

**【総則における規定】**

新学習指導要領は，第１章 総則(第４ 児童の発達の支援 １の(3))において「児童が，学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら，社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう，特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて，キャリア教育の充実を図ること」と定めています。

ここで定められる「特別活動を要とする」とは，具体的には，学級活動「(3)一人ひとりのキャリア形成と自己実現」を「要」とすることを意味しています(文部科学省(2017)『小学校学習指導要領解説　特別活動編』p.59-60)。新学習指導要領では，キャリア教育の視点から，小・中・高等学校のつながりが明確になるように，学級活動とホームルーム活動に共通の(3)が設けられたのです。

**【「要」の意味】**

文部科学省(2017)『小学校学習指導要領解説 総則編』は，「キャリア教育の要としての役割を担うこととは，キャリア教育が学校教育全体を通して行うものであるという前提のもと，これからの学びや自己の生き方を見通し，これまでの活動を振り返るなど，教育活動全体の取組を自己の将来や社会づくりにつなげていくための役割を果たすことである」と指摘しています(p.102)。

これからは，「教科学習」「学校行事，児童会活動等を含んだ教科外活動」「日常生活」の視点から，子どもたちの「今」と「未来」をつなげる工夫や配慮が必要です。

## 【ポイント解説 ③　学級活動においても板書計画は入念に】

キャリア教育が学校教育全体を通して行うものであるという前提のもと，様々な教科学習や活動等を振り返り，これからの学びや自己の生き方を見通すための話し合い活動を行う場合，児童から出されるエピソードは多岐に及びます。

児童の自由な発想や発言などを抑制しないよう，事前に分類や枠線などを示さない方法も考えられます。その場合，あとに全体の構造が浮かび上がってくるよう，板書計画を十分に練っておくことが大切です。

板書の実例［福島県東白川郡棚倉町立棚倉小学校　小松光恵先生の授業実践後の板書(2019年12月18日)］